

鷄肉情勢

令和6年8月9日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目

1. 国内

供給

2. 輸入

需要

1. 家計消費

2. 量販・卸

在庫

1. 令和6年6月

2. 見通し

相場

1. 令和6年7月動向

2. 見通し

内容

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年7月末実施)によると、6月の推計実績は処理羽数60,769千羽(前年比99.0%)、処理重量186.8千トン(同99.9%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.2%の下方修正となり、処理重量も2.7%上方修正された。重量ベースでは前年並みとなったことから、生鳥の増体性能や飼料の改良が進んだことによる餌食いの向上により処理重量が増加したのではないだろうか。この傾向は今年1月より継続している。

(2) 7月の計画処理羽数・処理重量ともに前年を上回る予想となっており、前月予想から重量ベースで3.8%上方修正された。しかし、一部産地で熱死や餌食い悪化による増体不良の話も聞かれるため、産地によりバラツキが見られる。8月については、7月の入雛羽数が前年比で増加したことや、生鳥の増体性能向上等により処理羽数・処理重量ともに前年を上回る予想となっており、重量ベースで前月予想から4.0%の上方修正となっている。しかし、暑さによる熱死や餌食い悪化、土・日・祝日が前年から1日増加(今年10日、昨年9日)したことによる処理工場の稼働日数減もあることから、実際は前年を若干上回る程度で推移するのではないだろうか。熱死対策で餌切りを強化・徹底している産地もあるようだ。工場の人員不足については外国人技能実習生が来日するようになったものの都市部への就業に集中していることや、従業員の高齢化などにより、人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や機械で加工することが難しい手羽中半割といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。この傾向は暫く続く見通しだ。

(1) 財務省7月30日公表の貿易統計によると、令和6年6月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲3.9千トンの49.4千トン、国別ではブラジルが前月▲4.9千トンの35.2千トン、タイが+1.5千トンの13.5千トンとなった。また、前年同月の実績に対しては▲8.3千トンとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は7月が48.8千トン(前年比104.6%)、8月は47.2千トン(同84.3%)となっており、コスト高・為替(円安)や先物価格の上昇や国内の輸入在庫の増加等により、輸入量は徐々に減少していくと予測する。直近の現物価格は上昇傾向であり、先物についても更なるコスト高が予想されるため、在庫を確保する動きが活発化しているようだ。また、ブラジルが鳥インフルエンザのシーズンに入ったため、今後の動向に注視したい。

(2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から+1.8千トンの42.6千トンで国別では中国が+1.5千トン、タイが+0.4千トンとなった。前年同月実績39.7千トンの差は+2.9千トンとなり、前月比・前年比ともに上回る結果となった。国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴う中食・総菜向け等の引き合いも継続している。冷食関係でも輸入鶏肉を使用したメニューが増えており、鶏肉調整品自体の需要も高いため、4月-6月は40.0千トンを超えたと考ええる。しかし、コスト高・為替(円安)もあるため輸入量が今後急増することは考えにくい。

(3) 財務省が7月30日に公表した貿易統計によると、6月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より2.5%上昇し、鶏肉調整品は中国が前年同月より9.6%上昇、タイが7.9%上昇した。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が303円/kg(前月比+1円)、タイ産が443円/kg(同+6円)となっている(国別平均価格)。ブラジル産については、中国・中東などへのオファーを増加させているという情報もあり、今後の動向に注視したい。

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年6月の生鮮肉消費(購入)は数量4,072g(前年比101.2%)・金額6,366円(同102.1%)と、重量・金額ともに前年を上回った。鶏肉は数量1,568g(同107.8%)・金額1,524円(同102.1%)・単価97.2円/100g(前年同月▲5円)と、数量・金額は前年を上回ったものの、単価は前年を下回った。調理食品が金額11,965円(同103.2%)、外食が14,633円(同113.0%)となっている。畜産の購入数量は牛肉が前年を下回り、豚肉・鶏肉が前年を上回る結果となった。輸入品を含めた牛肉・豚肉の高騰が続いたことから安価な鶏肉へのシフトが進んでいると推察される。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、コロナ禍前の水準まで戻りつつあるが、統計外となるインバウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。

(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年6月の食品売上高は全店ベースで前年比105.0%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同104.8%、既存店ベースは同103.8%となった。また、畜産部門の売上高は約11,362億円で全店ベース同102.9%、既存店ベース同101.8%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、「土日が1日ずつ多い曜日巡りを追い風に販売は回復したが、全般的な相場高傾向が続き販促しづらく、値ごろ感のある鶏肉への需要シフトが強まり、単価の下落傾向は継続。牛肉は父の日用のステーキ、気温上昇により週末の焼肉用など一部で需要は回復したが、引き続き和牛など高単価商品を中心に低迷が続く苦戦している。豚肉は相場高が続くものの、小間切れや豚しゃぶ用など値ごろな商材を中心に需要の回復も。鶏肉は引き続き販売が伸長している。加工肉は好不調の判断がわかれている。」とコメントがあった。消費者の節約志向は変わらないようだ。

(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和6年6月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比95.3%の4.6千トンとなった。うち国内品は同103.6%の3.7千トンと前年を上回り、輸入品については同71.4%の0.9千トンと前年を下回った。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の6月末時点推定期末在庫では国産36.7千トン(前年比128.4%・前月差+0.4千トン)、輸入品133.1千トン(同99.6%・同+2.1千トン)と合計で169.8千トン(同104.7%・同+2.5千トン)となった。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、6月の出回り量は国産142.3千トン(前年比100.1%・前月差▲3.7千トン)、輸入品47.3千トン(同91.8%・同▲2.0千トン)と合計で189.7千トン(同97.9%・同▲5.7千トン)となった。前月からは出回りが国産・輸入品共に減少しているものの、1日当たりに換算すると国産品が5月・6月ともに4.7トン、輸入品は1.6トンで前月と同数値となる。6月以降の在庫については国産・輸入品ともに増加傾向であるものの、前述の7月・8月の輸入量予測が50.0千トンを下回り、円安などのコスト高を見越しての集荷がある程度進んだため今後は絞られることが予想される。また、業務筋での消化が進み、在庫量は前年を上回る状況が直近では続くものの、徐々に国産在庫・輸入品在庫ともに減少すると予測する。

(1) 令和6年7月の月平均相場は、モモ肉613円/kg(前月差▲6円)・ムネ肉355円/kg(同+1円)正肉合計で968円/2kgと前月を5円下回り、前年同月を139円下回った。モモ肉相場は月初615円、月末は611円となり(昨年は月初721円、月末688円)、前年の相場を下回った。生産においては、各産地の処理羽数増や増体向上等から、全国的に順調に推移した。モモ肉については年末用の確保があるものの生鮮で売り切る動きが強く、余剰在庫を持たないように販促をかけているようだ。ムネ肉については輸入品全般の価格高騰等から加工筋向けの引き合いが強まっており、量販店での動きも活発化していることから現在の相場は実態と乖離しているのではないかとこの声も聞かれる。輸入鶏肉についても安い玉を探すことが難しくなっている。ササミ・手羽もとは量販店・生協などからの引き合いは強まっており、手羽さきについては集荷に難航しているようだ。内臓関係については、外食筋・CVSの動きが活発になった影響もあり引き合いは強まっている。鶏肉自体の需要は高まっているものの、供給量自体が増加している印象だ。

(1) 7月の生産量は前述にもあるように処理重量ベースで前年を上回る計画であるが酷暑による増体悪化も出ていることから、8月についても暑さの影響次第では集荷が難しくなる場面もあるだろう。実際に一部産地では増体悪化による出荷調整が発生している。ただし、盆明けから学校給食の再開までは販売が緩やかに落ち着くのではないだろうか。コストプッシュインフレ・為替(円安)の影響から食料品の価格全般が上がっており、6月分の家計調査結果を見ても牛肉・豚肉から安価な鶏肉への需要シフトが進んでいる。消費者の生活防衛意識が高まっていることもあり、大容量パックや安価な食料品に需要が集中しているようだ。モモ肉においては量販店の特売用として販売している店舗もあり、ムネ肉は消費者への価格訴求品としての引き合いが強い。輸入鶏肉については前年から比較すると輸入量は増加傾向ではあるものの、コスト高もあり安価で国内に流通することは考えにくい。8月のモモ肉相場はやや下げの月平均605円、ムネ肉相場は若干上げの月平均360円と予測する。

(2) 量販店などの消費者に近い業態では包装コストを下げるために、包装作業を行わずに済む1kgパックの導入検討をしているとの話がよく聞かれる。荷受・卸業態では配送コストの高騰から毎日納品に対して二日置きでの納品へ切り替えざるを得ないことや、自社便を持つ取引先へ置場渡しを提案したりなど苦慮しているようだ。また、貸切便の大型車を使用した配送については積載率を上げてキロ当たりの物流費圧縮・合理化に力を入れている業者も増えてきた印象だ。処理場についても切身商品や加工品の規格集約等の合理化を進めている。また、コストを下げるだけでなくSNS等のインターネット宣伝などの販促に力を入れる業者も増えていくのではないだろうか。量販店の総菜コーナーでは輸入品から国産品へ切り替えて他店との差別化を図る動きもあるようだ。前述にもあるが輸入品を含めた牛肉・豚肉の価格高騰により鶏肉への需要シフトが続く、鶏肉需要自体が落ち込むことは考えにくい。夏場の食肉需要自体の減衰も手伝い、モモ肉相場が徐々に下がる可能性はあるものの、鶏肉相場は順調に推移していくと思われる。

実績

生産状況

輸出入動向

鶏肉の消費動向

在庫状況(推定)

出回り量(推定)

相場(月別)

単位:千羽、千トン、%

	R5年累計(推計)		R6年6月推計実績		R6年7月計画		R6年8月計画		R6年9月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	60,107	97.0%	64,347	103.2%	68,585	100.5%	65,917	97.0%
処理羽数	743,734	100.9%	60,769	99.0%	60,897	103.9%	60,466	100.4%	59,646	98.2%
処理重量	2,240.5	101.0%	186.8	99.9%	180.5	103.0%	178.1	101.5%	176.3	99.8%

※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R6年2月	55.4	47.1	117.6	34.3	32.1	107.0	89.7	79.2	113.3	61.7	38.3
R6年3月	52.7	47.5	110.8	38.3	40.6	94.5	91.0	88.1	103.3	57.9	42.1
R6年4月	52.0	47.4	109.7	44.6	39.9	111.9	96.7	87.3	110.7	53.8	46.2
R6年5月	53.3	51.7	103.0	40.8	35.4	115.0	94.0	87.2	107.9	56.6	43.4
R6年6月	49.4	57.7	85.6	42.6	39.7	107.2	92.0	97.4	94.4	53.7	46.3

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R6年2月	1,584	1,402	113.0	1,605	1,475	108.8
R6年3月	1,614	1,497	107.8	1,650	1,511	109.2
R6年4月	1,509	1,572	96.0	1,539	1,566	98.3
R6年5月	1,569	1,485	105.7	1,585	1,530	103.6
R6年6月	1,568	1,455	107.8	1,524	1,492	102.1

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010
R5年	730	395	1,125

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年2月	34.9	25.0	139.6	124.1	128.1	96.9	159.0	153.1	103.9
R6年3月	36.9	27.0	136.3	129.1	126.9	101.8	166.0	153.9	107.8
R6年4月	35.5	27.5	128.9	127.1	119.5	106.3	162.6	147.1	110.5
R6年5月	36.3	29.3	123.6	131.0	127.5	102.8	167.3	156.8	106.7
R6年6月	36.7	28.6	128.4	133.1	133.6	99.6	169.8	162.2	104.7

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年累計	1,683.1	1,685.4	99.9	563.3	604.1	93.3	2,246.5	2,289.5	98.1
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R6年2月	140.3	133.0	105.5	57.1	44.6	128.1	197.5	177.6	111.2
R6年3月	141.5	140.8	100.4	47.7	48.8	97.7	189.2	189.6	99.7
R6年4月	147.4	138.8	106.2	54.1	54.8	98.7	201.5	193.6	104.1
R6年5月	146.0	140.7	103.8	49.3	43.7	112.7	195.3	184.4	105.9
R6年6月	142.3	142.1	100.1	47.3	51.6	91.8	189.7	193.7	97.9

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年4月	639	789	81.0	356	410	86.8	995	1,199	83.0
R6年5月	631	774	81.5	354	408	86.8	985	1,182	83.3
R6年6月	619	745	83.1	354	405	87.4	973	1,150	84.6
R6年7月	613	709	86.5	355	398	89.2	968	1,107	87.4
R6年8月	(605)	674	89.8	(360)	383	94.0	(965)	1,057	91.3
R6年9月	(605)	646	93.7	(365)	374	97.6	(970)	1,020	95.1

※()は見通し